

あたって ご挨拶



東通村長
畑 中 稔 朗

新年明けましておめでとございます。

令和5年の新春にあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

村民の皆様には、平素から村政の各般にわたる格別のご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

一 昨年の村長就任後、早いものでこの4月で折り返しとなります。引き続き、村民との対話を重視し、村民が主役の村政運営実現と推進に向かつて最善を尽くして参ります。

昨年は、前年度に引き続き円卓会議を実施し、各集落役員の方々にお越しいただき、防災に関することや生活全般に関わることなど、貴重なご意見やご要望をいただきました。

また、テーマを設け、芸能団体や若手漁師を中心に意見交換を行い、それぞれの視点からのご提案や思いを直接伺うことができました。

そして、将来を担う子どもたちの意見を村政に反映させることを目的に、昨年度に引き続き「中学生議会」の開催に加え、小学生を対象とした円卓会議を開催し、生徒達が普段の生活で感じている、教育設備等の充実や地域の活性化についてなど様々なご提案をいただきました。

いずれも、私が最も大切にしている施策でありますので、来年度以降も継続し開催するとともに、貴重なご意見やご提案を、今後の村政運営の参考にさせていただくとともに、実現に向けて努力して参りたいと考えております。

また、8月には、村内の企業や事業所に勤務する若手職員等が中心となり実行委員会を組織し企画した、住民参加型イベント「東通ドン！とボン盆フェスタ」では、「花火大会」や「コスプレ盆踊りコンテスト」など様々なイベントが開催さ

れました。

今後も、若者の自由な発想と行動力で、子どもからお年寄りまで、広く全世代が参加し、楽しめるイベントを創り上げていただきたく、村として全力で支援して参りたいと考えております。

ところで、昨年の我が村の第一次産業は、農業は、「水稲」が8月の大雨、日照不足により育成が心配されましたが、平年並みの収穫となりました。しかし、畑作の「そば」は大雨等の影響により、平年を下回る作柄となりました。

漁業においては、水産資源の減少による漁獲量の減少に加え、魚価の低迷、燃油や資材の高騰など、漁業経営は大変厳しい状況が続いております。

村といたしましては、主力産業である漁業の復活に向けて、獲る漁業から、つくり育てる漁業への転換を加速させるべく、事業を展開して参りますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

さて、我が村は、原子力発電所との共生をもつて、各種基盤整備と地域経済の発展を目指し、各施策を進めて参りました。

今年で、東通原子力発電所東北電力一号機の運転停止そして東京電力一号機の本格工事中断から12年が経過しようとしています。

両事業者に対して、私は村長就任以来一貫して、それぞれ再稼働と工事再開に至るまでの具体的な道筋、ロードマップを示し村民に対して公表するよう求めている、国策である原子力政策は、国、事業者、立地地域の信頼関係なくして進むものではなく、このままでは、これまで半世紀をかけ構築してきた信頼関係が損なわれ、村民の心が原子力から離れかねないなど、非常に強い危機感を抱いております。

このような状況の中、昨年10月には、村議会とともに国及び両事業者に対し、「東北電力一号機の早期の再稼働」、「東京電力一号機の早期の工事再開」、「エネルギー政策・原子力政策の推進」、「原子力発電所の安全確保と信頼回復」、「原子力災害対策の充実・強化」、そして「立地地域への影響の緩和」の6項目に係る要望書を提出するとともに、改めて、村民の悲痛な声と村の現状について直接訴え、責任のある対応をいただくよう強く要望しました。

また、昨年11月には両事業者の社長及び私の三者が初めて一堂に会し、10月に提出した要望書の内容を改めて確認するとともに、東通原発の推進と地域貢献について、今後も三者がより連携を密にし取り組んでいくことを確認したところであります。

このように東通村は、少子化、人口減少、長引く漁業の不振、地域経済の低迷等々の課題が山積しており、この現状を打破するために、「未来へ挑戦する東通村へ」のスローガンのもと、各種政策を展開して参ります。

村民が主役の村政運営実現に向けて、「東通円卓会議」や「子ども議会」等、村民の声を村政に反映させるための施策を柱に、未来をつくる「ひとつくり」、未来を牽引する「しごとづくり」、一人ひとりに寄り添う「くらしづくり」、そして村民のいのちを守る「むらづくり」を実施するべく、施策を展開して参りますので、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

村民の皆様の今年一年のご多幸を心より祈念申し上げます、新年に当たってのご挨拶と致します。